

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート  新規  継続  
( 団体用 )

## I 基本事項

整理番号 641

事業名	農業研究グループ育成補助金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	農業振興部	農林振興課		款	農林水産業費・6款
電話	0799 - 43 - 5025			項	農業費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目	農業総務費・2目	
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務				
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	職 食 づくり 夢あふれ 働く場を生み出すまちづくり			
	まちづくりの目標	ふやさんか 食づくりの担い手【農漁業】			
	施策目標	食づくりの源である豊穡の大地と海を守り、農業や漁業に携わる市民(若者、女性、元気な高齢者層など)を育てる			

## II Plan&amp;Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

事務概要	目的	対 象(誰を・どのような状況の人を、構成員内訳)			
		南あわじ市内の農業研究グループ			構成人数(人)
		390			
	実施内容	活動目的(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)			
		農業研究グループ相互の連絡調整・育成及び指導者の養成研修			
		(主な事業、活動内容等)			
	団体の概要	代表会を通じ、お互いのグループ活動・研究報告会を開催したり、視察研修により相互交流を深める。			
(どのような団体か、活動目的、活動内容など)					
集落、地域、同業種、等の農業に関する研究会等の協議会である。					
補助金算出根拠	事務局の所在 (直接事務執行部署)	<input checked="" type="checkbox"/> 補助団体	<input type="checkbox"/> 市役所	<input type="checkbox"/> 市単位 ( )	
				<input type="checkbox"/> 旧町単位 ( )	
				<input type="checkbox"/> 旧村単位 ( )	
補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度	<input checked="" type="checkbox"/> 設定なし			
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)				
	<input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から				

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
資源配分 インパクト	直接事務費 (千円)	750	750	750	750
	農業研究グループ育成補助金	750	750	750	750
	財源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	750	750	750	750
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)				
	事業量2(事業に要した人数)				
	年間経費([A]+[B])	750	750	750	750
	「構成人数」一人当り経費 (千円)	1.9	1.9	1.9	1.9
受益者人数( 390 )一人当り経費(千円)	1.9	1.9	1.9	1.9	
経費に関する 補足説明					

### Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) グループあたり、30,000円の補助金によりそれぞれの研究会の運営がなされている。	自己評価 (5点評価)
		4
必要性	公共性の高低 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 (公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 食まつりや農業関係のイベントに積極的に後援団体として協力をいただいている。また、それぞれのグループに若い人や女性が増えてきているので、後継者育成のためにも必要です。	自己評価 (5点評価)
		4
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 個人がそれぞれの団体に加入することで、研鑽・交流を深めることが出来る。若い後継者や女性には必要である。	<div style="text-align: center;"> <p>評価グラフ</p> <p>費用対効果      必要性</p> </div>

## IV Action&amp;Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 交付方法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 交付方法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input checked="" type="checkbox"/> 予算削減
	<p>食まつりや農業関係のイベントに積極的に後援団体として協力して頂いており、また、それぞれのグループに若者や女性が増えてきているので農業後継者の育成の観点からも支援を継続していく必要がある。</p>	<p>同左</p>
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果		
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>イベント等で、後援やお手伝いを願うことがむづかしい。また、市の唯一の後継者育成補助金であるので、市の農業施策の姿勢を問われる。</p>	